

日本経済はプラス成長も弱い個人消費

ポイント① 外需回復で4-6月期プラス成長

8月15日発表の2023年4-6月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは前期比+1.5%と3四半期連続のプラス成長でした。また、名目GDPは前期比+2.9%と1-3月期に続き高い伸びでした。需要項目別の前期比実質増減率を見ると、個人消費は▲0.5%、輸出が+3.2%、輸入が▲4.3%でした。自動車輸出やインバウンド消費の回復で輸出が増加に転じた一方、資源エネルギー価格の下落などによる輸入減少で、外需寄与度は+1.8%と実質GDP成長率全体を上回り、内需は▲0.3%とマイナス寄与しました。

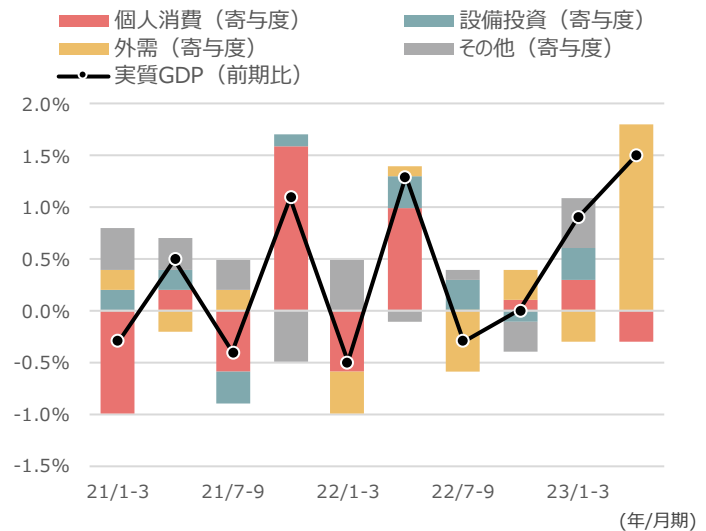
ポイント② GDPデフレーターは3期連続上昇

4-6月期のGDPデフレーターは、前年同期比+3.4%と3四半期連続で上昇しました。これまでの資源高・円安などといった輸入物価の高騰が国内にも波及していることが主な要因と見られます。物価高を背景に消費者の購買意欲が抑制され、今回の統計発表では日本のGDPの半分以上を占める個人消費の減少が確認されました。

ポイント③ 7-9月期もプラス成長となるか

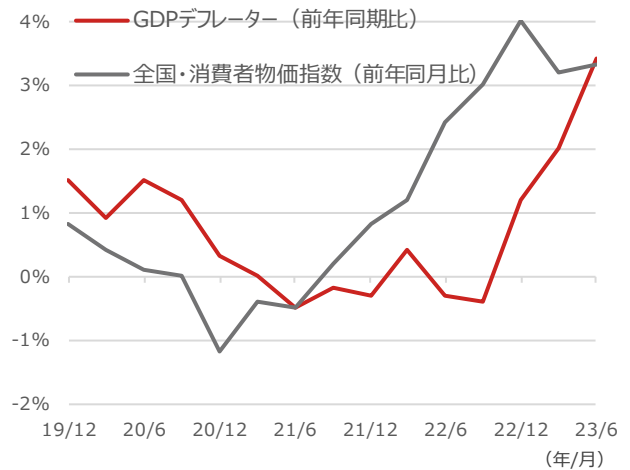
現状の円安水準や半導体などの部品供給問題が緩和していることで、自動車輸出の回復が引き続き期待できるほか、中国政府が日本への団体旅行規制の解除を発表したことで、今後のインバウンド消費拡大が期待されます。また、実質雇用者報酬が増加したことで、今後の個人消費増加も期待されます。財貨・サービス輸出の増加が続き、個人消費が増加に転じれば、7-9月期の日本のGDPは4四半期連続のプラス成長となるが見込まれます。

日本の実質GDP成長率と
主要需要項目の寄与度



期間：2021年1-3月期～2023年4-6月期、四半期
（出所）内閣府「国民経済計算」(<https://www.cao.go.jp/>)より野村アセットマネジメント作成

日本のGDPデフレーターと
全国・消費者物価指数の推移



期間：GDPデフレーター：2019年10-12月期～2023年4-6月期、四半期
全国・消費者物価指数：2019年12月～2023年6月、四半期末
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 8月17日 日本貿易収支（7月）
- 8月18日 全国・消費者物価指数（7月）
- 8月25日 東京・消費者物価指数（8月）